令和6年度　学校評価書

雄琴小学校

評価の基準（ 3:よくできた　2:できた　1:あまりできなかった　0:まったくできなかった ）

項　目		小項目	自己評価 小項目評定	自己評価 項目評定	自己評価 現況	学校関係者評価 項目評定	学校関係者評価 意見・提言等	今後の学校改善に向けて
主体的・対話的で深い学び	1	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	2	2	○主体的であれば、対話的になり、深く学ぶことにもつながる。いかに主体的に、いかにやる気にさせるかが大切だと改めて感じている。 ○児童が主体的に学びに取り組む実践をみんなで深めていきたい。 ○校内研修の取組として、学級のユニバーサルデザイン化を目指して、授業づくり、教室づくり、集団づくりを通して、参加率100%の取り組みを全職員で考え、話し合うことができたことは成果であると考える。また全職員で公開授業を参観し授業改善に取り組めている。しかし、児童に力をつけていくには引き続き、全職員で共通理解のもと取り組む必要がある。 ○児童が主体的に学びに取り組む実践をみんなで深めていきたい。 ○目の前にいる子どもたちにとって何が必要かをしっかり考えて子どもたちが輝けるように日々取り組むことができた。 ○学びの受信だけでなく、発信の場面をいかに増やすかがキーポイントなんだな、とやっと分かってきた。 ○児童の実態に合わせ実践できた。 ○引き続き、子どもの主体的な学びが実現できるような授業づくりを目指していきたい。 ▲低学年からの積み上げと、学校全体の系統化された指標のようなものがある方が、教師がみんな同じ方向を向いて指導しやすいなと感じている。子どもたちにもわかりやすく浸透しやすいと思う。 ▲学びに向かうための基礎の力が確立していないと主体的・対話的で深い学びの実現は難しいように感じている。話し合い活動そのものには参加できる子が多いので、学活など取り入れやすい教科から試していきたい。 ▲騒がしくなったり、けんかが起こったりしないように、対話の時間を避けるようになった。 ▲雄琴小学校の児童に合わせたスタイルを確立する必要があると思う。 ▲主体的に考える、行動する力をつけるための発問や問題提起を授業の中で取り入れたいと思っているが、今の現状難しいと感じる。 ▲やりたいと思うが、できたという達成感のある学習を目指すところまでできる。 ▲学習に向かう素地や構えづくりにまだまだ重点を置く必要を感じ実践している。教師との対話の中で相談したり交渉したりして学習を進めている。 ▲子どもにどう働かせれば、対話的で深い学びに動かせるか探っている。 ▲静かに座って話を聞く等主体的な学びに入るのに時間がかかりすぎる。	2	・一昨年の状況から改善してきているが、まだまだ足りていないことが多いと思う。各学年ごとに課題はあるが、それを一年間で改善するのは難しい。複数年同じ先生に担任にしていただければ、焦らず計画的に学級運営でき、課題の克服につながるのではないか。 ・基本の基本である「人の話をしっかり聞く。」「チャイムが鳴ったら席に着く。」ができていない子が多すぎる。「多様性」の言葉に甘えて、強く注意もできず,きちんと指導できていない結果だと思う。1年生の時に基本が身につかず高学年になった子が、今の5・6年生。基本が土台にあってこそ、主体的に学べるのだと思う。1年生のうちに基本ができるような指導をお願いしたい。土台がぐらぐらでは、何も積みあがらない。 ・前学年の復習など必ずできるを目標にしたテスト（クイズ）で自尊心・基礎学力の向上を試みてはどうか。 ・けんかがおこるから対話をさせない？この一番大事な部分をさせない先生って・・と不安になる。騒ぎながらけんかしながら子どもは成長していくのではないだろうか。 ・本当に学校に行くたび、「静かに座って話を聞く等主体的な学びに入るのに時間がかかりすぎる。」と感じる。2クラスある学年は、びしっと分けてしまってもいいのではないかと感じるくらい、ちゃんとしたい子はかわいそうだと思う。 ・自己主張の強い児童には、友だち（他人）の気持ちをくみ、気遣いをもつように、また、自分の気持ちをコントロールするように指導。	・今年度も教育のユニバーサルデザイン化の推進を継続し、「参加率100%」を合言葉に全職員が授業・教室環境・集団作りの3つの視点をもって目の前の児童にあった授業を研究できたことは子どもたちにとっても教職員にとっても大きな成果だったと思う。来年度も引き続き職員全員で考え、授業改善に努める。 ・次年度も全学年の授業公開を行い、校内研修を計画的に実践する。 ・児童の自主性や協調性を伸ばしていくためにも、縦割り活動の推進を行う。
	2	協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善（ICTの活用含む）	2					
	3	主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会	2					
道徳教育の充実	4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を 育てる活動の実施	2	2	○去年よりはいわゆる道徳授業ができるようになってきたと思う。 ○6年生は昨年から、発問を3つに分けて…という従来あるべき道徳の授業がなかなか成立しなかったが、2年目でようやく、少しできるようになってきた。こうあるべき！という信念のようなものをあらゆる場面で捨ててきてしまったので、残りの時間で少しずつスタンダードに戻していきたいと思っている。(雄琴スタンダードではなく、一般的なスタンダードに…) ○学期始めに全学級でいじめ防止の授業を行うことは大変有効であったと考える。また、道徳の公開授業を二部制にして多くの保護者に参観してもらったこと、6年生が合同授業を行ったことも今年度の良い取組だったと思う。 ○子どもたちの実態と学習内容に開きがないように工夫することが大切だと感じた。教科書内容にこだわるのではなく、他の資料も活用した授業づくりに取組みたいと考えている。 ○各学期に一つのテーマで良いので、何かの単元について全校で取り組んでみてはどうか。学校全体の道徳的風土も生まれると思うし、保護者に向けても学校の取り組みを知っていただくチャンスになると思う。 ○その子どもたちに合った教材選びが大切だと感じる。 ○道徳的価値や実践的態度につながるように、再現活動や意味づけをしている。 ○　ソーシャルスキルトレーニングやアサーション、アンガーマネジメント等を取り入れていきたい。 ○道徳の時間だけでなく、日々の生活の中で子どもたちとのかかわりを通して大切なことを伝え続けることができた。 ▲道徳観を育てるのは難しい。 ▲毎日の積み重ねが大切。 ▲なかなか道徳の授業で、人の思いや人との距離を考えるのは難しい。 ▲学年の縦のつながりを意識して取り組むことが大切。 ▲子どもの言葉遣いから、十分に育っているとは言いにくい。 ▲作成した教材をストックしておく体制にした方がよい。	2	・過去の状況から仕方ありませんが、雄琴スタンダードが一般的なスタンダードに（早めに）戻っていくことを願っている。 ・道徳の合同授業は、より多くの考えを知ることができるので、今後も継続を希望。全校縦割りで1～6年それぞれの考えに触れるのもよい経験にならないかと思う。例えば、町別児童会で集まる時に、道徳の授業を設けるのはどうか。 ・道徳の授業だけでなく、普段の生活の中での経験が道徳観を育てるのには重要だと思う。まずは、クラスの中での出来事にどう対応するかを大事にしてほしい。 ・以前「社会を明るくする運動」で4年生に作文を作ってもらったことがあり、その時、多くの児童からあいさつをする、ごみを捨てない等読んでいて温かい気持ちになった。他の学校の作文も心打たれるものが多くあった。参考にされてはどうか。 ・公開授業（道徳）二部制にしていただき、本当に感謝している。 ・クラスで学年で学校で一緒に一つの目標に向かっての取組は素敵だと思う。何ができるかを考える必要がある。 ・学校にいる先生だけが教えるだけでなく、講師の先生に来ていただくのもいいと思う。 ・どうしたら縦のつながりができるのか、考えないといけないと思う。 ・各学年にあった道徳の授業を行うのは大変だと思う。児童に「いじめとは何」、いじめられる側のつらさ、心に残る傷について教えることが大事だと思う。	・全校で統一して年度当初にいじめの指導を行ったことは毎年の積み上げとして大切なことなので次年度以降も続けていく。いじめを未然に防ぐ特別授業を来年度も全学級で行う。 ・次年度は、毎学期１回いじめの授業に取り組めるとよい。 ・学習に使った資料をストックし保管できるような場所を作る。
	5	道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流	1					
	6	保護者等への道徳科の授業公開	2					
体力づくり	7	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	2	2	○□□月間みたいなのを設けるのも良いかと思いました ○体育や体を動かすことが好きな児童が多いように思う。運動会、陸上記録会の取組やおごとランニングフェスティバルの企画を行うなど体力づくりに積極的に取り組んでいる。 ○体を動かす活動はよくできている。 ○体育主任を中心に、来年度以降は気軽にできる体力づくりに取り組みたいと思います。 ○本校は、体力づくりに意欲的な子どもたちが多いと感じでいる。 ○できている ○自立活動で継続して取り組む必要がある。 ○縄跳び大会など、児童の目標となる取組ができたらいいと思います。 ○体を動かしてルールを守って活動することは、大切だと思う。 ○学習の時間のみならず、休み時間にも積極的に体を動かすよう児童とともに遊んだり学んだりすることができた。 ○時代の流れ的に、体力づくりよりも運動への意欲づくりに主眼を置いている。 ○児童の実態に合わせて取り組んだ。 ○運動に親しむ環境をもっと積極的に作りたい。 ▲比較的体力はあるけれど、やりたくない女子が多く、家庭も子どもと同じ考え(やりたくないならやらなくてよい)なので、指導が難しいです。 ▲運動が得意と感じている子と苦手と感じている子の運動経験の差がひらいていると感じています。苦手な子でも楽しめる運動に取り組めればと思います。 ▲体育の授業に使用する教材教具がそろっていない中、よい授業をするのは難しいのではないかと思う。	2	・たんぽぽ体育継続希望。特にチームでやる活動は体力づくりだけでなくコミュニケーションの面でも有効だと思う。 ・雄琴小は登校するだけで山登り。体力づくりにつながっていると思う。以前毎学期もらっていた「健康貯筋証」を復活し、アピールすれば体力づくりのハードルが下がり、体を動かす意欲につながるかもしれない。 ・〇〇月間を設ける。長休み・昼休みにチャレンジしてクリアするとシールをもらえるようにすると意欲がわく子も多いのではないか。 ・教材がそろわず授業が難しいのは納得。半面、物がなくてもできる体力づくりも多くあると思う。ストレッチ運動やダンスも立派に体力づくりになるので教材や授業にこだわらず、やれることからやっていくのがよいと思う。 ・登下校の坂道で体力づくりはできていると思う。 ・本当に先生はやりにくいと思う。昔なら全員参加が当たり前。 ・教材がそろっていないとは例えばどんなものなのか？ ・それぞれの児童に合った運動をするのはどうか。遊びながら運動、体力づくりができるといい。	・おごとランニングフェスティバルは児童の学習の成果を確かめる場としてとても良かったという意見が多かったので、次年度以降は、やる時期ややり方について検討して臨む。 ・体力づくりを登校・下校でできていることをもっとアピールして示していく。 ・学習備品の補充や倉庫の整理等の環境整備を行う。 ・学校全体で縄跳びに力を入れていきたいと考えている。縄跳びに関する取り組みや行事を充実させ、子どもたちの体力づくりに励みたい。
	8	体力づくりを推進する運動実践	2					
	9	体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成	2					
指導改善（組織的・計画的）	10	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	2	2	○チーム担任制も選択肢の一つかと思う。 ○職員が増え、担当する授業が減ったことで働き方改革が進んだ。来年度も続けていってほしい。 ○校内研究などで、指導や授業の改善をしている。 ○特別日課で授業を行うなど、児童のために一番適切な教育課程を考え、実行できている。特に真夏の暑い時期の7月と9月に行った特別日課は効果的で子どもも教員も意欲的に取り組めていた。 ○いろいろなことを教えていただきながら指導にあたることができた。 ○二人体制で、授業を進める、個別に対応するを分担し、よくできている。 ○すべての学年で研究授業を行い、指導力を高め合うことができた。 ○40分授業は放課後の時間にゆとりがあって心に余裕ができてよかった。 ○本校はとてもよくできていると思う。 ▲子どもの現状からまだ指導者側の人が足りない。 ▲今後、単級の学年が増えることが予想されるので、校内研究部内や学年部などの中で日々の授業づくりや校内研に向けた指導案検討などを行うと、学力向上や教師の資質能力の向上につながると思う。（単級の担任は、授業づくりで不安なことも出ていると思うので。） ▲その子どもにあった声かけをその都度考え、方法を変えていくことが大切で、柔軟に対応する必要があると感じる。 ▲余裕がないため、隣は何をしているのかわからないです。 ▲5の項目と同様のことを感じている。 ▲学力向上を目指すための学校組織としての取組が弱いと感じる。	2	・チーム担任制は今の6年生など教科担任制のある学年には不要。十分複数の目があるので、これ以上先生の人数が増えると、逆に子どもの安心につながらない。単級学年（特に低学年）では、チーム担任制は子にとって有効だと思う。実現には課題も多いが、実現すれば子どもが安心できる環境になると思う。 ・教科担任制の中で専科の先生の授業は専門的に教えてもらえるのでよい。隣のクラスの担任の先生の授業はクラスによる差がなくなることと学年としての関わりが深まるのでよい。中学校とのギャップも少なくなる。 ・特別日課に不安を覚えている保護者多数いる。もっとその効果をアピールし、安心してもらえるようにすべき。 ・特別日課（40分授業）は効果的であると思う。 ・先生方の疑問や不安をきく、話す機会をもたれてはどうか。 ・40分授業で保護者は大変そうだ。もっと目に見えない部分？本当に必要な業務なのか？そういう部分で先生の負担が減ったらなと思う。 ・どうしたら余裕ができるのか考えないといけないと思う。	・40分授業については、時数の削減や児童の負担軽減として、一定の効果はあったが、授業内容への不安の声や日課の変更による児童の戸惑いが見られたため、2025年度の計画としては一旦組み込まないこととする。代わりに、5時間授業の日を増やすなどして時数の余剰分の削減を図る。 ・教科担任制や交換授業をどんどん取り入れて、複数の目で子どもたちを見守ることができる体制を作る。 ・ステップアップの内容を見直し、読書時間の確保や学習に向かう土台作りの時間になるよう工夫する。
	11	教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	2					
	12	働き方改革の取組と教育活動の質の改善	2					
育ちと学びを支える連　　携								

① 家庭・地域との連携・協働	13	保護者の子育てに対する積極的な支援	2	2	○保護者の皆様と地域の皆様の協力があって多くの体験的な学習を取り入れることができた。また、安全面においても多くの見守りに支えられ安心安全な生活を送ることができた。 ○昨年から、保護者にはたくさん助けてもらっているので、ありがたいです。too muchな時は、はっきり断る勇気が必要だなということも思う。 ○5年生のお米プロジェクトなど作物を育てることをはじめ、交通安全教室、人権の取組、毎日の登下校の見守りなど多くの地域の人と連携して子どもたちのため動くことができている。また、周年行事をはじめ保護者との連携も充分できていた。 ○発信も受信もできている ○TEAMおごとさんなど、保護者の方が学校に入ってくださる時間が増え、子どもたちの生の姿を見ていただく機会が増えたことはありがたいことだと感じている。 ○計画に基づいて、できている。 ○先生方が保護者の方に寄り添う姿勢が素晴らしいなと、本校にきてからとても感じる。 ○その家庭に応じて、学校ができることをチーム学校で考えることが大切だと学んだ。 ○本校はとてもよくできている。 ▲子どもに関心を持ってもらえるような策が必要。例えばHPの更新、周知。 ▲実情を見ても伝えても、学校ばかり叩かれたりはけ口になることに疑問を感じている。 ▲家庭が学校に関心をもてるような取組を考えていきたい。 ▲なかなか電話で伝えることは難しい。	2	・保護者が協力的な人と無関心の人で二極化している。協力的な人が出しゃばりすぎと感じることも多々ある。必要以上の協力は、断ることも必要。 ・無関心の人に少しでも学校の様子を知ってもらうために、学習公開を工夫してはどうか。「学習公開ウイーク」として、数日間どの時間にでも参観できるようにすれば、忙しい保護者でも時間の都合をつけやすい。そしてより普段の様子を知ることができる機会になる。 ・地域への発信は、町内の掲示板を有効利用すべき。 ・自治会未加入の家も多くある。自治会行事と学校行事の両方の情報を得られている人は多くないので、情報共有できる方法を考えたい。 ・学年・クラスにより差がありすぎるのは気になるが、雄琴小日記では学校の様子がよくわかりありがたい。 ・何もしない、知らない親ほど先生が大変だと思う。先生がなぜそこまで下手に出ないといけないのか疑問だ。 ・TEANおごとにも関心を持ってほしいと思っている。 ・校長先生に以前話したことがあったが、保護者も電話で言うのもなと考えている方も多いと思うし、仕事の都合で出られない人もいると思うのでメールやメッセージのやり取りができればいいのではないか。 ・学校から今の状況、これから何を行いたいのかを発信してもらえれば地域はもっと関われお手伝いができるし用に、学校で[illegible]ほしい。	・ホームページ等で学校の様子を伝えることを今後も大切にしていきたい。 ・ホームページやtetoruで、学年や学級の様子、学習内容、方針などを発信していく。
	14	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	**2**						
	15	防災教育の推進、感染症対策の推進等、安心・安全な学校づくり	2						
② 保幼小中の連携	16	子どもの校種間交流や教員の出前授業	1	1	○計画に基づいてできている。 ○中学に向けてはこれからが本格化するのかなと思っています。 ○日吉学推で授業公開を行うなど日吉ブロックでの連携はできている。 ○55交流を復活させて、幼少の連携を深めたい。 ○中学校とはよく連携しているが、幼保こども園とのつなぎをもっと大切にしていきたい。 ○よくできていると思う。 ▲幼稚園からの新入生が減少し多くの保育園と連携をしていけるかが今後の課題である。 ▲5、5交流を復活させても良いかもしれない。 ▲校種が変わるタイミングでの引き継ぎが難しいと感じている。指導計画がないままに高学年に上がっている子が多く、早い段階で支援体制を考えることができるよう保幼との連携を進めることが大切だと思っている。 ▲先生間での子どもの情報共有を常に行える体制を作ることが大切だと感じる。 ▲中学校とはよく連携しているが、幼保とも交流していきたい。 ▲複数の園から就学してくる実情を踏まえて、年長の早い時期？などから就学に向けて共通認識をしておいたほうがいい。 ▲保幼小の連携は難しい。	1	・コロナ前のように5・5交流（星の子さんと）1日入学、発表会や運動会に招待する。その中で気になる子がいれば、小学校側から幼保に問いかける（指導計画や入学後のクラス分け等） ・昨年度日吉中合唱コンクール予選に下阪本小6年生が見学に来ていました。日吉中の行事に参加・見学させてもらえたらいいなと思う。 ・就学前健診の日、健診後に校内を自由に見せてもらえるようにすれば、子どもの安心感につながる。 ・複数園から進学してくるので、年長児が小学校へ来る機会を多く設け、今回来れなくても次回は来れるみたいになる方法を探りたい。 ・何年も前から言っているが、どうしたら復活できるのか。幼稚園はバスでも来てくれます。 ・一年生で学校の環境に戸惑い、馴染めないなど、幼・保・同時に学校で顔合わせを行い円滑に就業できるようにならないか。	・保幼小交流は、児童にとっても、新1年生の園児にとってもとても大切な活動である。児童には、下の子に対する思いやりの心を育てるため、園児にはスムーズな接続を期待するため、次年度、少なくとも1回は交流の機会が持てるよう各園と相談して実施したい。
	17	校種間の授業公開や合同研修会	2						
	18	保幼小中の接続期の教育課程の編成等校種間のカリキュラム研究	1						
組織的体制の充実									
① 生徒指導体制の充実	19	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導	**2**	2	○週に一回の連絡会は必要。情報共有しやすい。 ○一番力を入れているところ。これでも、かなり落ち着いたと感じている。 ○毎週行う生徒指導連絡会、報連相メモを活用し、担任、生徒指導主任、子ども支援コーディネーター、教務、管理職がしっかり情報共有し組織的に取り組んでいる。 ○いろいろと助けていただいて有難い。 ○家庭によって教育観も異なり、指導が難しいと感じることが多いですが、いろいろな先生方に助けていただきながら進めることができた。 ○聞き取りから指導まで、組織的にできている。 ○いつも組織的に対応していただけるので、担任として安心している。 ○子どもにいつもと違う様子が見られたら、報告するよう努めた。 ○クラスを担任している先生方が、生徒指導面で保護者の方から相談があった際に迅速に対応かつ丁寧に対応する姿が、とても勉強になっている。” ○人手が足りないが、教育相談体制はとっており、本校教員の中て対応している。 ○チームで取り組むことができた。 ○ほかの先生と聞き取りを一緒にしてもらいながらできるのはいい。（自分一人では難しい。） ○教育相談での連携では担当の先生にとてもお世話になった。 ○精一杯取り組んでいる。 ▲課題は多い ▲フリーの先生方の負担が大きいと思う。	2	・複数の目で組織的な対応と情報共有の体制はよいと思う。 ・トラブルに対する対応がマニュアル化されている気がするときがある。状況に応じて柔軟な対応も時には必要だと思う。 ・具体的なトラブルではない「授業中誰かがうるさい」等の声を軽く受け止めている先生は気をつけてほしい。いずれ不登校やいじめにつながる。自己評価が高い印象を受けた。 ・現状の人数で精一杯されていると思うが、やはり人数が足りない。 ・家庭への連絡は具体的にお願いしたい。報告だけなのか、報告＋対応が必要かなどしっかりとつたえてほしい。 ・今年は本当に複数対応で関わってくださった先生方の負担がすごかったと思う。ありがとうございました。 ・一日の大半を学校で過ごす子どもたちにはやっぱり担任の先生ってすごく大きな存在で、影響力もすごい。担任の先生決めは本当に慎重にしてほしい。	・生徒指導連絡会を週1回行い、子どもたちの様子について共有する。 ・次年度も報・連・相メモを活用し、担任、生徒指導主任子ども支援コーディネーター、教務、管理職がしっかりと情報を共有し組織的に取り組んでいく。 ・次年度も教科担任制、クラス間の交換授業を推進することで複数の目で児童を見守っていくこととする。 ・持ち物や服装のルールについて年度当初の早い段階で全保護者に周知し、児童の学校生活が乱れないように心掛ける。
	20	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進	**2**						
	21	家庭・地域・関係機関との連携による指導	2						
② 特別支援教育の充実	22	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	**2**	2	○ほっとる一むに関しては、皆様のお力添えなしには運営できなかったと思う。感謝の気持ちでいっぱい。いつもありがとうございます。 ○特別支援コーディネーターと担任、管理職と共通の認識を持ち、保護者や関係機関と連携し、就学相談や通級指導教室、発達相談などを必要な子どもに対して適切にすすめることができた。 ○組織的にできている。 ○チームで取り組むことができた。 ○精一杯取り組んでいると思う。 ▲支援学級での取り組みが通常学級の児童に伝わりづらい。 ▲個別の支援計画をやめる場合には、注意が必要。1人の担任判断は避けるべき。 ▲通常学級の子どもたちへの理解教育を進めていく必要があると感じている。特別支援教育に限らず、多様性を認めることができる子どもたちになって欲しいと願っている。 ▲多様性が大切にされていることもあり、本校でも特別支援学級への理解教育を進めていくべきだと思う。。 ▲ほっとる一むをはじめ、たくさんの先生で子どもを見ることで、支援の体制が充実すると考える。 ▲保護者と連携して、支援を進めているが、やはり人がたりない。 ▲多様性を理解する学習を実施することの難しさを今年度も感じた。 ▲個別の指導計画が担任まかせで、子ども発達相談センター等に繋ぐツールになっていない。定期的な特別支援部会の開催が必要。	2	・高学年になって、たんぽぽへの転籍する子が多々いる現状、低学年のころから十分な支援計画がされていたのか疑問。今、共通認識で対応されているのはわかるが、前年、前々年の情報の引き継ぎが十分だったのか検証が必要だ。保幼小の連携不足でそもそも対応が出遅れているのかどうかも検証する必要あり。 ・たんぽぽの子は交流学級でできることでもたんぽぽにいたがる傾向がある。たんぽぽの方が居心地良いからだ。将来の成長を考えると交流学級で過ごせる力も必要なので可能なことは交流学級へ行かせる働きかけもするよう意識してほしい。 ・たんぽぽの子が交流学級で安心して過ごすためには理解教育が重要。年度当初に交流学級の子へきちんと説明するべき。「たんぽぽはどういうところなのか」や「〇〇くんは何が苦手で困っているからたんぽぽで先生の助けを借りて勉強しているんだよ。」と具体的に子どもたちに伝える必要がある。 ・理解教育としてたんぽぽさんのおでんを交流学級の子にも食べてもらったらいいと思う。歴史博物館の支援学級作品展の案内も積極的に行ったらよいと思う。	・校内ウイング（ほっとる一む）をさらに、居心地の良い教室にするため、部屋を広くし、使い勝手の良い環境を整える。 ・個別の指導計画についてしっかりと保護者と話し合い、子どもの困り感に寄り添う体制を整える。アセスメントシートを上手に活用し、気になる児童へのかかわりを考えていく。
	23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	2						
	24	関係機関と連携した相談体制の充実	2						